

平成29年度第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成29年6月22日（木）18：30～19：35

場 所：浜益支所庁議室

資 料：会議次第

浜益区地域おこし協力隊概要【第2期】

資料1

浜益区地域おこし協力隊の想定業務

資料2

浜益区地域おこし協力隊～これからの流れ～

資料3

＝会議次第＝

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 協議事項
 - 1) 地域おこし協力隊制度の導入について
4. その他
5. 次回開催日程について
6. 閉 会

出席者：19人（委員9名、職員9名）傍聴人：1名

委 員			職 員	
役 職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会 長	赤間 聖司	○	(支所) 支所長	松田 裕
副会長	大久保満彦	○	(支所) 地域振興課長兼都市整備課浜益支所担当課長	木村 新吾
委 員	寺山 広司		(支所) 地域振興課観光担当課長	成田 和幸
委 員	久慈 貞子	○	(支所) 市民福祉担当課長併任浜益生涯学習課長	笹 富雄
委 員	徳地 克実		(支所) 保健福祉担当課長兼はまます保育園長 兼浜益国保診療所庶務課長	若狭 康晴
委 員	小田 則貞		(支所) 地域振興課主幹	羽立 欣一
委 員	安保美佐子	○	(支所) 地域振興課地域振興担当主査兼産業振興担当主査	藤巻 誠一
委 員	三上 正信	○	(支所) 地域振興課地域振興担当主任兼産業振興担当主任	須田 恒
委 員	白井かの子	○	(支所) 地域振興課産業振興担当主任兼地域振興担当主任	渡辺 善仁
委 員	羽立 裕子	○		
委 員	岸本 紀子			
委 員	小笠原輝幸	○		
委 員	山本 侑香			
委 員	石川 宗	○		
委 員	辻 カヨ子			

1 開 会

【木村課長】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

只今より平成29年度第3回浜益区地域協議会を開催いたします。開会にあたりまして赤間会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

【赤間会長】

日中のお仕事でお疲れのところご出席いただきましてありがとうございます。

例年になく、朝夕の寒い日が続いておりましたが、ようやく初夏の陽気になり、過ごしやすくなってまいりました。田植えも終わり、ナマコ、ウニ漁も既に始まっており、サクランボ狩りも来週あたりから始まり、農、漁業も活気を見せてきております。これから夏本番を迎え、朝市で賑わったような、多くの観光客で活気あるシーズンになって欲しいと願っております。

本日は前回に引き続きまして、地域おこし協力隊の導入についての協議が議題でございますので、よろしく願いいたします。

【木村課長】

ありがとうございました。

それでは、これからの議事進行については、会長に議長をお願いいたします。

3 協議事項

【赤間会長】

はじめに協議事項1) 地域おこし協力隊制度導入について、事務局から説明をお願いします。

【藤巻主査】

私の方から資料に基づき、説明をさせていただきます。

- 資料1 浜益区地域おこし協力隊概要【第2期】
- 資料2 地域おこし協力隊の想定業務
- 資料3 浜益区地域おこし協力隊～これからの流れ～

(説 明)

【赤間会長】

ただいま、浜益区の地域おこし協力隊の概要、第2期協力隊に求めること、地域おこし協力隊隊員の想定業務、地域おこし協力隊のこれからの流れ、ということで詳細にご説明がございましたけれども、これらについてなにかご質問、ご意見等があればお受けいたしますので、よろしく願いしたいと思っております。

ご意見、ご質問等がないようですので、いま説明がありましたスケジュールで進めていただきたいと思います。

【藤巻主査】

はい、分りました。

4 その他

【赤間会長】

次にその他で何かございますか。

【木村課長】

私の方から2件ほど、報告させていただきます。

1件目は、自治基本条例の見直しに係る委員の派遣について、ということで、石狩のまちづくりの基本理念や原則などを示します、石狩市自治基本条例というのが平成20年に制定されております。その条例の第30条で、5年を越えない期間毎に、その条例が社会情勢の変化等にマッチしているかどうかについて、検討を行なって、その結果に基づいて必要な見直しを行ないなさい、というふうになってございます。平成25年に前回の見直しがされておまして、5年が経過する平成30年度に向けて、来月になりますけれども、自治基本条例懇話会というのを立ち上げまして、見直し作業を進める予定となっております。現在広報いしかりなどで2名の公募委員を募集しておりますけれども、これとは別に地域協議会からも委員の派遣を依頼されており、先日市役所の担当であります企画課長他が来庁しまして、直接赤間会長に内容を説明され、懇話会委員を赤間会長に引き受けて頂いております。赤間会長には懇話会委員として参加して頂きまして、その検討状況をこの地域協議会で報告して頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、浜益区内におけます就業インターンの受入ということで、7月に労働力、人手を確保したいと

いう区内の受入業者、幌の木村果樹園さんと、川下の日本海さんなのですけれども、そこと7月が夏休み期間となりますアメリカの大学との調整がついて、カリフォルニア州にあります、チャップマン大学の男子学生19歳なのですけれども、7月2日から7月31日までの4週間、浜益で就業いたします。7月3日から7月19日、7月18日から24日、木村果樹園さんで果樹の収穫作業、7月10日から7月17日、7月25日から7月31日、日本海さんの方でウェ이터ですとか調理の補助を行なう予定となっております。果樹園や日本海さんに行った時には、声かけをして頂ければと思っております。この大学生ですが、お父さんはアメリカ人ですが、お母さんは福岡出身ということですので、日本語が話せると聞いております。名前はロジャース・シオンさんです。

【成田課長】

私の方から平成29年度の浜益区における各種誘客事業について、ご報告いたします。

浜益区の誘客事業につきまして、過日6月19日月曜日の石狩市議会総務常任委員会におきまして、今年度の浜益区に予定している各種事業について、総務常任委員に報告してきたところでございます。その時の報告事項は7、8点ほどございまして、まず1点目がカフェ・ガル営業中である、ということです。今年もカフェ・ガルは10月1日まで営業しています。ということをご報告してあります。今年度もより多くのお客様に訪れて頂くよう、PRの一環として、この度、厚田地域着地型観光まちづくり協議会主催のおもてなしセミナーの浜益会場として、このカフェ・ガルを利用することを報告しておきました。おもてなしセミナーにつきましては今回配布の資料の中にもチラシを入れてあります。6月29日の午後4時からセミナーを行ないますので、本日お集まりの皆さんもお時間等ご都合のつく方がいらっしやいましたら、是非参加して頂けるとありがたいと思います。

2点目は、川下海水浴場、今年の開設期間、7月8日から8月17日までの41日間やりますということをご報告しました。

3点目は浜益みなと祭りでございます。今年は第4回目ということで8月5日に開催するということをご報告してあります。

4点目は増毛山道でございます。この増毛山道というのはNP0法人増毛山道の会が約10年をかけて、山道の笹刈りを繰り返して、昨年秋に全長約27kmの全線復元を完了させたものでございます。そのことによりまして今年度も各種トレッキングツアーが企画されているところでございまして、地元黄金山岳会が主催するツアーも企画されております。区民の皆さんにおかれましてはトレッキングにご興味をお持ちの方は、ぜひ私ども支所の観光担当にお電話頂ければ、対応させて頂きたいと思っております。黄金山岳会が今年予定しているのは、トレッキングツアーの初級、中級、上級の3種類と、笹刈りの体験というのがありまして、山道の笹刈りは今週末、明日、明後日24日土曜日に体験ツアーを行なうことになっております。初級というのは8月に開催するのですけれども、幌から浜益御殿までの往復7kmを歩くというのが初級のトレッキングツアーでございます。これは8月11日に予定しております。9月になりますと、中級16kmのトレッキングといたしまして、距離は幌から増毛町岩尾までのルートです。16km歩いてもらうというツアーが9月16日に予定しております。9月30日になりますと上級22kmコースというのがありまして、これは幌から増毛町別刈まで、これは22kmですから約12時間歩き続けるのですけれども、驚いたことに、この一番ハードな上級が既に予約、定員に達しております。それだけ関心が高いことになっております。

5点目に浜益川サケ有効利用調査についての報告です。近年北海道内における釣人人口が減ってきているらしいです。我々支所の担当としても、これまでも増して、沢山のお客さんに来てもらえるよう、PRに工夫を重ねていきたいと考えております。今年は9月9日から10月18日が調査期間となっております。

6点目は、はまます「いっぺ・かだれや」ヘルシーウォークでございます。これは今年第12回となります。コースは昨年同様でございます。第1回目から現在まで、区内の各種団体の皆様にはお世話になっておりまして、同ウォークを主催する実行委員会の構成員として、石狩観光協会様、石狩北商工会様、JA北石狩様、石狩湾漁協様、浜益区自治会連合会様、浜益自治婦人会連絡協議会様、浜益中学校様、その他に多数の団体の皆様のご協力により、毎年安全安心な大会運営を果たすことが出来ておりまして、心より感謝申し上げる次第でございます。今年の開催日は9月17日日曜日でございます。今日以降開催当日まで、例年通りの手順で準備を取り進めさせて頂きまして、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

7点目は、同じく浜益ふるさと祭り、今年第35回、同じく9月17日開催でございます。今年も多くのお客様にご来場頂きますよう、私ども支所の担当もPRに努めて参りたいと考えております。またこの他に浜益漁港朝市、それから果樹園のサクランボ狩りについても市議会の総務常任委員会に報告し

ていたところでございます。

【赤間会長】

只今、平成29年度の浜益区の集客事業について、詳細について、ご説明がございましたけれども、これについて聞きたい点がございましたらお受けしたいと思います。何かございませんか。

【委員多数】

ありません。

【赤間会長】

その他で何かございますか。

【若狭課長】

ファミリーサポートセンター事業の検討ということについて、説明させていただきます。あまり耳慣れない事業かと思しますので、まずは石狩本町地区で行なわれている、ファミリーサポートセンター事業を参考例として説明させていただきます。

まず子育て支援をして欲しい人、これは依頼会員というのですけれども、その要望に応じて子育ての支援をしてあげたい人、これはサポート会員といいます。が有償でお子さんを預かる簡易組織で、本町地区においては平成19年度から子育て支援組織が市長公宅の一部を活用して、サポート事業を展開しております。利用料は預かりなど1時間600円程度の自己負担が発生します。基本的には有償ボランティアという形で、そういう形態で事業展開されております。利用例としましては、保護者の外出時のお子さんの預かりですとか、保護者の病気の時、休養の場合の援助、保育所施設の入所前の援助、短時間臨時的就労などの援助など、その他にもいろいろなニーズに対応して預かり事業を展開している内容になってございます。またサポート隊員になるためには託児実習を含め、8日程度、大体は午前中の講習のコマで、1日大体3時間程度で、約25時間の講習を受けて頂くことによって、サポート会員になれるということになっております。そこでまず浜益地域の若い人、勤労者、働く人の数が増加しているほか、子育ての周りを、最近の状況を見ると、一次産業への若い人の就労が多くなっていること、また結婚を控えた独身者も多くなっている、また実際に結婚し、出産、仕事をしながら子育てをしている方も、年々多くなってきているのではないかと、現在検討中ではございますが、厚田区において小学校、中学校そして保育園が合体した学校ということで、平成32年度に開校ということで予定されております。そうした中で保育のニーズということで、0歳児も含めた対象年齢の引き下げということも併せて検討のテーブルに上がってございます。そこで浜益でも地域にあった子育ての支援の仕組み作りが出来ないか、ということで今後の子育てニーズに対応していく方法のひとつとして、ファミリーサポート的な内容で浜益地区の状況にあった仕組み作りが出来ないかなど、一時預かりを含めて、出来ることから何か始める仕組みは出来ないだろうかというところで、その一環としてニーズ調査を実施したい、ということを考えております。依頼側の対象としては、保育園、保護者、乳幼児事業に参加している就学前のお子さんの保護者などを対象にしてございます。サポート側としては浜益婦人連絡協議会に相談したりとか、対象をいろいろ検討していきたいと考えております。ニーズ調査の実施時期として来月7月上旬を目処に行ないたいと思っております。こちら側の知りたい情報としては、地域でどれくらいの子育て支援の需要があるのか、また援助して欲しい人の人数や規模、有償とはいえこの事業についてはボランティア的な要素が強いことから、サポート会員として活動してくれる方が何人登録してくれるのか、ということも知りたい項目となってございます。調査項目としては、一時預かりの利用形態は季節的なものなのか、また通年利用を希望しているものなのか、また預かる料金としては石狩では1時間600円となっておりますけれども、どのくらいが浜益の地域にあった利用しやすい単価なのか、ということを利用者側の一方、サポート側として受け入れる年齢、また時間帯などもございますので、そのような調査内容になってございます。なお現在、浜益保育園での園児の受入状況についてでございますが、一番小さいひよこ組というのがございます、これは今2歳なのですが、来年の年明け3月の31日までに3歳になる子をひよこ組として受け入れてございます。実際のところ7人、浜益にはクラスはいるのですけれど、5人来ております。その上に3歳児4歳児5歳児ということで、20人浜益保育園では今実際に受けているのですが、ひよこ組の下にもまだ乳幼児ということで、大体、毎年5人ぐらいつが今後入園してくる予定の人数ということで、今の時点では押さえております。今後もその5人程度で推移するのではないかとということで、今後の地域で必要な子育てニーズを調査して、どのようなサービスで子育て環境が充実、また改善されるのか、支援の仕組み作りについて検討していくためのニーズ調査という位置付けで、いま動いてございます。

【赤間会長】

只今、ファミリーサポートセンター事業の検討ということについて、説明がございましたが、ご質問

あるいはご意見等があればお受けしますので、よろしく申し上げます。

【松田支所長】

補足しますけれど、少子高齢化というのは、間違いなくこの地区の一つの課題ですから、そういう部分で言ったら、まず婚活だとかそういう活動をどうするかとか、そうやって結婚していった人達は住むところをどうするかだとか、そうやって子供が出来たら子供を預けたりという部分をどうするかだとか、いろいろなことを考えていかなければならないと思いますけれど、その中のひとつ、子供の預かりという部分に関して、すべてが役所の保育園で全部対応できれば、それが一番良いのでしょうかけれども、もしそこが時間が間に合わなかったり、十分でないようなケースの時に、地域の力を使って対応できることがあるのかないのか、そのへんの意識も含めて、皆さんに聞いて回りたいというのと、そういうことを地域に投げかけることで、今地域のことで、支所なり役所も含めて、どういうふうなものと考えて、どういう取り組みをしようとしているということを、いろいろ分ってもらえるようにしていくことが必要だと思ひまして、今日その他の中で、資料も示さないで中身の濃いことを言われて、皆さんも困っているかもしれないですけど、しかるべきタイミングの時には資料も示してご理解頂けるように努めていきたいと思ひますけれど、この後の件も含めて、そういった取り組みの一つとして動いているんだということをご理解いただければと思ひます。

まず募集要項と業務内容を皆さんに精査していただいて、そしてOKとなればこの募集要項も作成していくという2回にわたって、皆さんにお計りして行きたいと思っております。

【赤間会長】

その他で何かございますか

【笹課長】

私の方から、少年団活動への移動手段支援について、ご相談したくお話しします。資料は用意しておりませんので聞いてください。

浜益区唯一の野球少年団でありました浜益黄金フェニックス、昨年3月いっぱいまで団意見書に団活動が厳しくなったということで、解散しております。昭和56年6月設立しましたので、30年以上の活動歴があったのですが、そういう状況に陥りました。その後活動を希望するお子さんが2名ほどおりました、この春、厚田区の少年野球チームのポセイドンに入って、活動していると聞いておりました。活動は週5日の練習で4日間は厚田のグラウンドで、週1の水曜日は浜小のグラウンドで行なっており、保護者が自家用車で送迎をしているという現状でした。その中、先日、厚田スポーツ少年団ポセイドンの団長さんと保護者3名、計4名が浜益支所に来られまして、私と支所長、主査の3名で対応しました。厚田への送迎負担が非常に大きいということで、まず浜益小学校の団員を浜益中学校の部活動生徒と同様に、浜益厚田間のデマンド乗合自動車を利用させて欲しい、また利用する費用についても部活生徒同様の支援をお願いしたいと、この2点を要望されていきました。まず1点目の利用については一般の住民と同じく予約制であって、他の乗客も含めて9名以内であれば、またある程度の運行時間というのは決められておりますから、その時間内であれば、昨年の実績から見ると利用は十分可能だというお話をさせていただきました。2点目の浜益中学校部活動生徒と同様な支援については、まず少年団活動というのは学校教育から離れておまして、通常の範疇ではないということで、教育委員会サイド、小中学校という形で行けば教育委員会とすぐ行くのですけれども、少年団活動については教育委員会の範疇ではないという部分がありまして、まず委員会での支援は難しいと、これは見解をいただいております。また他の部署でこのような少年団活動への支援は特にないと、そういう制度がないというところなんです。いま中学生の部活動生徒が利用する場合は、デマンドの場合、通常の公共料金であれば大人料金扱いなのですが、当初から部活の生徒には半額という制度が設けられております。また教育委員会の方で、部活の生徒の1ヶ月定期の補助の部分で半額をしているということで、実際のところ定期1ヶ月8,400円になるのですけれど、それが半分の4,200円で済んでいるというところなのです。ところが少年団の子供については、8,400円ということで、このままでいくと逆転しているような状態です。浜益区の団体競技というのは非常に厳しい状況です。小学校、中学校同じです。今後、入学してくる次の世代、新しい児童生徒もそういう環境にはないということからも、去年からデマンドというのが運行しているのですけれども、公共交通がない、その他の民間の交通手段もないという中であれば、浜益区の特的な環境の中だということで、市の政策課題という部分で地域振興基金等のそういう活動も含めた、対応も検討して行かなければならないと考えているのですけれども、これについて委員さんの率直な感想、意見があれば受けたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【赤間会長】

今の説明の趣旨は理解できます、中学校の部活動は学校教養の一環としてそれなりに市の支援がある

のですが、少年団の活動については支援がないと、現状では中学生が部活であれば4,200円の定期だが、小学生が少年団活動をするに8,400円かかる、これらのギャップになんらかの支援をしたい、という考え方もある。それで地域協議会の皆さんの意見を聞いた中でそれぞれ検討されるので、ざっくりばらんな意見を出していただいて、今の説明の中では、できれば振興基金というようなニュアンスも出てきております。

【白井委員】

認識不足で申し訳ないのですが、普通公共交通料金、子供料金というのがあると思うのですが、小学生、デマンド交通に関しては、そういう子供料金は無いのですか。

【松田支所長】

通常の公共交通機関でしたら、中学生から大人料金です。たまたまここは去年から始めたデマンドで、中学生の負担も小さくしようということで、あえて小学生と基本料金を同じ金額にしているのです。大人の半額で小学生も中学生も乗れる状態になっている、それに加えて部活に関しては更に半額を支援するという形にしている、結果的に8,400円のところを、半額支援しているから4,200円になっています。小学生は定期を買えば8,400円で、さらなる支援は行っていないので、8,400円になり、金額的にずれが出てきます。

教育委員会サイドで全部拾ってくれれば一番良いので、そうして欲しいなと思っているのですが、これが全所的なところを見ていくと、課題もあって、花川だとかは自分のところに少年団があるところもあるし、いま野球の話だけをしていますけれど、いろいろな少年団があって、バスケットだとかは一つしかないわけで、みんな親御さんがすべて負担して行っているわけで、純粹に浜益のケースに支援するということになれば、全市それはどうするのですかという問題もあって、そういう部分ではいろいろハードルがあるということは間違いない状況があるのです。

そうとはいえ、むこうの学校では選択肢がありますが、浜益は選択肢がない地域事情があるという要素になっているので、そういう部分で対応するという方法も含めて、どういうふうに考えていけばいいか協議していくことです。

【小笠原委員】

正直言って中学校もバレー部員が今年、この間、市内の中体連で負けたので、最後の一人でもう終わってしまいました。過去には全道大会に出た、伝統がある女子バレー部なのですが、いま募集を停止しているの、次年度は0になります。この7月から0になっております。野球部も、去年は野球部2人、バレー部1人そのバレー部がいなくなります。来年度はバレー部は募集していないので、野球部が2人、このままでは中学校では美術部だけになってしまいます。予算的な振り分けは分りませんが、小学校の少年団活動に振り分けできないのか、小学校の時から運動に親しんできたなら、中学校に進学した時も運動系部活に入りたいと思うはずで、そのように中学校の部活動につなげて欲しいと思います。

【石川委員】

実際の話は家庭の話を知ると、どうしても家の手がかかる、やらせてあげたいけれど、出来ないの、我慢してと3年間我慢している子もいるのです。あといまの小学生、それぞれの好きな部活は中学校に入って変わる可能性もあります。いままで時間つぶしで入っていたということもありますので、一概には言えないです。

【白井委員】

子供の選択肢を、大人の都合で消してしまうのは簡単なことなのですが、子供にとっては自分で選べるということは、大人になってから貴重な体験になるのです。ここの地域は今現在少ないのを更に少なくしてしまうのは、子供達にとって酷なことだと思うので、もし出来るのであれば、我々あまり知識がないので、次の段階までに具体案を示していただければ、意見を出せると思うのですが、よろしくをお願いします。

【赤間会長】

中学校は学校教育の中で部活動ということで、教育委員会サイドでいろいろな検討の中で、デマンドはこういう支援の方法があるのだけれど、たとえば浜益に少年団がないのだけれど、その少年団の活動のために厚田に行く、その時の金額が中学校の部活の子供よりも高い金額で、果たしてどうなのだろうかと、これを支援する方法が浜益の地域の特性として何か無いだろうか、ということだと思うのです。

いま白井委員から出た様に、整理して次回協議会に示してもらえれば、おそらく皆さんも何とかしてやりたいという気持ちがあると思います。

【藤巻主査】

お手元の方に、前回の協議会以降、本日までの新聞記事を皆さんに配布しておりますので、ご家庭にお戻りになってからご覧頂ければと思います。

5 次回開催日程について

【赤間会長】

次に次回開催日程について、事務局から提案願います。

【藤巻主査】

次回開催につきましては会長と協議させていただいてから、近くになりましたらご連絡いたしますのでよろしくをお願いします。

【赤間会長】

只今、事務局から提案がありましたとおり、次回開催につきましては、決定後、事務局よりそれぞれご連絡いたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

6 閉 会

【赤間会長】

以上をもちまして平成29年度第3回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成29年7月22日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会 長 赤 間 聖 司